

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																												
北海道メディカル・スポーツ専門学校	平成24年11月8日	佐藤 俊	〒061-1396 恵庭市恵み野北2丁目12-4 (電話) 0123-36-5500																												
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																												
学校法人滋慶学園	昭和58年12月23日	浮舟 邦彦	〒134-0084 東京都江戸川区東葛西6丁目16番2号 (電話) 03-5878-3311																												
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																											
医療	医療専門課程	柔道整復師学科	平成6年文部科学大臣告示 84号	—																											
学科の目的	怪我に対する的確な評価と治療ができるスキル、怪我の予防やパフォーマンスの向上をサポートできるスキル、多種多様な疾患に対して柔軟に対応できるスキルを習得し、生涯学習の精神をもち続ける柔道整復師の養成を行う。																														
認定年月日	平成27年2月17日																														
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																								
3年	昼間	2775時間	900時間	975時間	900時間	0	0																								
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																										
180人	90人	0人	7人	24名	31名																										
学期制度	■前期: 4月1日～9月30日 ■後期: 10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 成績評価における評価点は、平素の学習状況、出席状況の3要素による加点ならびに試験結果を元に100点法とし、60点以上を合格点とし、成績評価による学業結果を総合的に判断し、GPAを用いて算出する。GPAの算出は、小数点以下第3位以下を四捨五入する。 【GPAを算出する計算式】 「GPA=(該当授業科目の単位数×各授業科目で得たGP)の合計÷当該学期に評価を受けた各授業科目の単位数の合計」																											
長期休	■学年始: 4月1日～ ■夏季: 8月10日～8月16日 ■冬季: 12月26日～1月6日 ■学年末: 3月31日		卒業・	学年単位取得及び卒業の認定は、本校の教育課程に定める各学年における全ての各学科科目の単位を取得したとき、学校長が行う。																											
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 個別及び三者面談		課外活動	■課外活動の種類 柔道大会の参加、陸上大会サポート、Redbull400大会サポート 障がい者スポーツ大会サポート ■サークル活動: 有																											
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成28年度卒業生) 整骨院 整形外科 福祉施設 ■就職指導内容 キャリアセンター、担任、教員による相談、指導、面談。		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和1年度卒業者に関する令和2年5月1日時点の情報) <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>柔道整復師</td> <td>②</td> <td>21人</td> <td>18人</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> ※種別の欄には、各資格・検定について、以下の①～③のいずれかに該当するか記載する。 ①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの ②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの ③その他(民間検定等) ■自由記述欄 (例)認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	柔道整復師	②	21人	18人																
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																												
柔道整復師	②	21人	18人																												
中途退学の現状	■中途退学者 6名 令和1年4月1日時点において、在学者 96名(令和1年4月1日入学者を含む) 令和2年3月31日時点において、在学者 90名(令和2年3月31日卒業者を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止・中退者支援のための取組 年1回実施しているサポートアンケートによる学生状況分析、それに基づく面談やスクールカウンセラーと連携した個別面談などを実施している。		中退率 6.0%																												
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 兄弟姉妹・保護者減免制度、卒業生減免制度、単位減免制度、Wライセンス減免制度 部活動応援減免制度、実技特待生制度、筆記特待生制度 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象 給付金利用者: 0名																														
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																														
当該学科のホームページ	<a href="https://www.hms.ac.jp/department/masterreset/">https://www.hms.ac.jp/department/masterreset/</a>																														

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

企業・業界の求める知識・技術が教育課程に反映されるように業界の動向に関して情報交換を行い、教育課程の改善および改定を定期的実施することを目的とする。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門的な知識と技術、接遇を習得し、医療業界、スポーツ業界等さまざまな『フィールド』で活躍し社会貢献できる柔道整復師の養成のためのカリキュラム編成を検討できる委員会を組織する。教育課程編成委員会は理事会のもとに設置され、教育課程編成委員会規定に則り、委員会の適切な運営は理事長が担保することになっている。また、学校運営においては教務組織規則において、「委員会での審議を通じて示された企業等の要請その他の情報、意見を十分に生かし、実践的かつ専門的な職業教育を実施するにふさわしい教育課程の編成に努める」ことが明記され、この定めに従い、委員会を運営する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
林 紀博	札幌柔道連盟 理事	令和元年9月1日～ 令和4年3月31日(2年)	①
上林 祐貴	手稲ゆうき整骨院 院長	令和元年9月1日～ 令和4年3月31日(2年)	③
荒 耕児	北海道メディカル・スポーツ専門学校 教務部長	令和元年9月1日～ 令和4年3月31日(2年)	教育課程編成責任者
早坂 正利	北海道メディカル・スポーツ専門学校柔道整復師学科 学科長	令和元年9月1日～ 令和4年3月31日(2年)	教育課程編成責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間開催数:2回 開催時期:7月及び2月

(開催日時)

平成30年度 第1回 平成30年7月18日 17:00～19:00 札幌市中央区南1条西1丁目15 丸美ビル3階 SAKURA-S1  
 平成31年度 第2回 平成31年2月20日 18:00～20:00 北海道ハイテクノロジー専門学校 第2校舎リトミック教室  
 令和1年度 第1回 令和1年7月17日 18:00～20:00 北海道ハイテクノロジー専門学校 第2校舎リトミック教室  
 令和2年度 第2回 令和2年2月8日 18:00～20:00 北海道ハイテクノロジー専門学校 第2校舎リトミック教室  
 令和2年度 第1回 令和2年7月11日 15:30～17:30 北海道ハイテクノロジー専門学校 第1校舎112教室

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

委員の方より現場で活用されている柔道整復術以外の手技の必要性や学校のコンセプトであるスポーツを柔道整復師とのつながりが気づけるカリキュラムづくりの必要性についての意見もあり、講義内で日常生活上のアドバイスができる知識として福祉系の講義内容を展開し、治療の知識だけでなく代替品や装具、バリアフリーや各種支援制度の存在を知るためのカリキュラムを実施。また、身体のパフォーマンスを向上するための手技も授業の中で展開するなど、委員の方の意見を取り入れ、現場で必要とされているスキルを身につけるための取り組みをしている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

治療だけでなくスポーツ選手をサポートしている先生による講話や実技指導を通して、スポーツ外傷に強い柔道整復師の育成とアーリーエクスポージャー導入によりモチベーション向上に努める。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

スポーツ選手に必要な評価や運動指導、スポーツ現場で必要とされる柔道整復師としての評価や治療について、実際のプロのチームのトレーナーによる評価や指導法を連携し学ぶ機会を学生へ提供している。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
柔道整復実技Ⅲ	スポーツ選手に必要な評価や運動指導法の習得	北海道コンディショニングラボ
柔整トレーナー実技Ⅲ	スポーツ外傷で必要とされる外傷評価の修得	ほうしん大麻駅はり灸整骨院

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 近年里妻悦とれている教育方法を得ることと教育力向上をはかることにも、臨時的な知識・技術を取っ払いしてそれを教員 の教育現場に活かし、指導力を向上させるために行うことを目的とする。	
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等 2018年8月18日19日 第60回 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教員研修会(2名) 2019年8月24日25日 第61回 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教員研修会(2名) ② 指導力の修得・向上のための研修等 2018年12月21日 平成三十年度文部科学省認定「職業実践専門課程」研修会(1名) 2019年7月3日 JESC国試対策研修会(4名) 2019年7月23日 令和元年度文部科学省認定「職業実践専門課程」研修会(1名)	
(3) 研修等の計画 ① 専攻分野における実務に関する研修等 2021年8月 第62回 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 教員研修会(3名) ② 指導力の修得・向上のための研修等 2021年7月 JESC国試対策研修会(6名) 2021年7月 平成三十一年度文部科学省認定「職業実践専門課程」研修会(1名)	
4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係	
(1) 学校関係者評価の基本方針 日々の学校運営については学内の学校長、副校長、教務部長、事務部門長により月1回の定例会議にて運営の見直し並びに次年度事業計画修正への検討を行っている。また、学校関係者評価委員会で得られた外部評価における意見や提案はその内容を検討し12月には改善計画を含めた事業計画を策定している。自己点検自己評価については、年度終了後に「計画」「実践」「評価」の一連の評価を行うために、学校評価ガイドラインに設定した目標や、具体的な計画の実践状況について学校評価委員会を開催し自己評価点検を実施し学校関係者評価との連動により学校運営に活用している。一方教育活動については教務部長ならびに学科長で構成される学内組織において教育実践上の問題の検討や計画の修正等を検討し、年2回の教育課程編成委員会への報告により毎年次年度カリキュラムへ反映し日々の授業運営の改善に取り組んでいる。	
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理念・目的・育成人材像は定められているか</li> <li>・学校の特色は何か</li> <li>・学校の将来構想を抱いているか</li> </ul>
(2) 学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方針は定められているか</li> <li>・事業計画は定められているか</li> <li>・運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか</li> <li>・人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか</li> <li>・意思決定システムは確立されているか</li> <li>・情報システム化などによる業務の効率化が図られているか</li> </ul>
(3) 教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学科の教育目標、育成人材像はその学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向づけられているか</li> <li>・修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</li> <li>・カリキュラムは体系的に編成されているか</li> <li>・学科の各科目はカリキュラムの中で適正な位置づけをされているか</li> <li>・キャリア教育の視点にたったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</li> <li>・授業評価の実施・評価体制はあるか</li> <li>・育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</li> <li>・教員の専門性を向上させる研修を行っているか</li> <li>・成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</li> <li>・資格取得の指導体制はあるか</li> </ul>
(4) 学修成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図れているか</li> <li>・資格取得率の向上が図れているか</li> <li>・退学率の低減が図られているか</li> <li>・卒業生・在校生のの社会的な活躍及び評価を把握しているか</li> </ul>
(5) 学生支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生相談に関する体制は整備されているか</li> <li>・学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生の健康管理を担う組織体制はあるか</li> <li>・課外活動に対する支援体制は整備されているか</li> <li>・学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</li> <li>・保護者と適切に連携しているか</li> <li>・卒業生への支援体制はあるか</li> </ul>
(6) 教育環境	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設・設備は教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</li> <li>・学外実習、インターンシップ、海外研修などについて十分な教育体制を整備しているか</li> <li>・防災に対する体制は整備されているか</li> </ul>

(7) 学生の受入れ募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生募集活動は適正に行われているか</li> <li>・学生募集において教育成果は正確に伝えられているか</li> <li>・入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか</li> <li>・学納金は妥当なものとなっているか</li> </ul>
(8) 財務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</li> <li>・予算収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</li> <li>・財務について会計監査が適正に行われているか</li> <li>・財務情報公開の体制整備は出来ているか</li> </ul>
(9) 法令等の遵守	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法令、設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか</li> <li>・個人情報に関しその保護のための対策が取られているか</li> <li>・自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか</li> <li>・自己点検自己評価結果を公開しているか</li> </ul>
(10) 社会貢献・地域貢献	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか</li> <li>・学生のボランティア活動を奨励、支援しているか</li> </ul>
(11) 国際交流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか</li> </ul>

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価は年に1度実施している学校関係者評価委員会により各委員の意見を反映し学校運営に活かすべく方針を決定している。

道内、日本全国、世界(特にアジア圏)で活躍するスポーツを支えることが出来る人材養成を推し進める。

1. プロチーム、トップアスリートとの教育連携の継続と新規開拓を進める。
2. 新専攻の開講(パラスポーツ、eスポーツ、スポーツビジネスを支える人材養成)を実現する。
3. 滋慶学園グループ姉妹校との教育連携強化を継続する。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年9月1日現在

名前	所属	任期	種別
日光 大輔	医療法人社団 慶心会 介護付有料老人ホーム ラ・デュース恵み野	令和元年9月1日～ 令和4年3月31日(2年半)	卒業生代表
田畑 亜由美	学生の保護者	令和元年9月1日～ 令和4年3月31日(2年半)	保護者代表
根占 克哉	北海道恵庭南高等学校 教諭	令和元年9月1日～ 令和4年3月31日(2年半)	高等学校関係者
久保 純一	NPO法人 まちづくりスポット恵み野 理事	令和2年7月1日～ 令和4年3月31日(1年半)	地域関係者
長沼 利優	北海道柔道整復師会 総務部員	令和2年5月1日～ 令和5年8月31日(3年)	業界関係者
鉢 直人	一般社団法人 ノルディーア北海道 代表理事	令和元年9月1日～ 令和4年3月31日(2年半)	業界関係者
福良 均	北海道鍼灸マッサージ師会 常任理事	令和元年9月1日～ 令和4年3月31日(2年半)	業界関係者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期 令和2年9月1日

(ホームページ)

URL: <https://www.hms.ac.jp/disclose-information/>

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者に対しては、業界視点を越えた教育施設としての社会活動からの評価視点を得ることが出来るため、これらを学校教育の客観的な評価、運営での業界目線、地域目線、保護者目線、卒業生目線、そして行政目線から第三者の外部評価と意見をいただく委員会として位置づけをしている。したがって、その情報提供は、学科ごとに設けた教育課程編成委員からの教育評価や産学連携、業界連携についての報告を密に行うとともに、入学式、実習報告会、懇談会、研究発表会、学園祭、卒業式等の行事にも委員の出席をいただき、学園の生の活動の理解を得る機会を持つように心がけとともに、ホームページを通じて積極的に学校情報を発信し、学校の運営状況について知っていただく機会を持つ努力と教育施設としての水準の向上に努めている。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	(1)学校の概要、目標及び計画
(2)各学科等の教育	(2)各学科等の教育
(3)教職員	(3)教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	(4)キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	(5)様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	(6)学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	(7)学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	(8)学校の財務
(9)学校評価	(9)学校評価
(10)国際連携の状況	(10)国際連携の状況
(11)その他	(11)その他

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

情報提供はHPにて公開をしている

自己点検自己評価による

[https://www.hms.ac.jp/common/doc/9\\_jikohyoka\\_29.pdf](https://www.hms.ac.jp/common/doc/9_jikohyoka_29.pdf)

別紙様式4

<https://www.hms.ac.jp/disclose-information/>

法人決算書及び監査報告書

[https://www.hms.ac.jp/common/doc/29\\_kessan.pdf](https://www.hms.ac.jp/common/doc/29_kessan.pdf)

[https://www.hms.ac.jp/common/doc/9\\_kansa.pdf?date=20180629](https://www.hms.ac.jp/common/doc/9_kansa.pdf?date=20180629)

学校関係者評価委員会報告書

[https://www.hms.ac.jp/common/doc/9\\_kankeisya\\_hyoka.pdf?date=20180717](https://www.hms.ac.jp/common/doc/9_kankeisya_hyoka.pdf?date=20180717)

学校関係者評価結果及び改善方策

[https://www.hms.ac.jp/common/doc/9\\_senmon\\_kankeisya\\_hyoka.pdf?date=20180717](https://www.hms.ac.jp/common/doc/9_senmon_kankeisya_hyoka.pdf?date=20180717)

## 授業科目等の概要

( 専門課程 柔道整復師学科 )			令和2年度													
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
○			生物学	生物の分類をはじめ、遺伝・遺伝子等、生物化学の基礎知識を身につけ、人体の仕組みについて説明できる。	1年前期	45	3	○			○			○		
○			心理学	人間の行動・発達心理人格形成等の心理学の基本的な理論を身につけ、様々な人とコミュニケーションがとれるようになる。	1年前期	30	2	○			○				○	
○			栄養学	健康維持のための栄養の基礎を身につけ、食生活に関するアドバイスができるようになる。	1年前期	30	2	○			○					○
○			情報科学	Excel・Word・PowerPoint等のパソコンの基本・応用を身につけ、状況に応じたプレゼンテーションができるようになる。	1年前期	30	1		○		○					○
○			応用生物学	生物学を基礎に人体の機能の応用的な知識を身につけ、説明できるようになる。	3年前後期	60	4	○			○					○
○			保健体育Ⅰ	体育として柔道を通じて、柔道の礼法や技法を習得し、基本的な動作ができるようになる。	1年前期	30	1		○		○					○
○			保健体育Ⅱ	体育として柔道を通じて、柔道の礼法や技法を習得し、基本的な動作ができるようになる。	1年後期	30	1		○		○					○
○			保健体育Ⅱ	体育として柔道を通じて、柔道の礼法や技法を習得し、応用的な動作ができるようになる。	2年後期	30	1		○		○					○
○			解剖生理学Ⅰ	神経系、感覚器の基本的な構造、仕組みを理解し、応用的な知識を身につける	1年前期	60	4	○			○					○
○			解剖生理学Ⅱ	全身循環、心肺機能の基本的な構造、仕組みを理解し、応用的な知識を身につける	1年前期	60	4	○			○					○
○			解剖生理学Ⅲ	泌尿器・生殖器の基本的な構造、仕組みを理解し応用的な知識を身につける	1年後期	60	4	○			○					○







